

学会通信

2021年活動報告（敬称略）

（1）第22回総会

2021年1月9日（土）午前11時45分～午後5時20分

於：Zoom

1. 研究発表（所属は発表当時）

ゴロウィナ・クセーニヤ（東洋大学）／ムヒナ・ヴァルヴァラ（上智大学）

「犠牲性」のナラティブ化：在日ロシア語圏女性移住者による仕事の経験を事例に」

2. 総会

司会（北原卓也）

議事（議長：工藤久貢、書記：松田俊介）

事務局の竹中宏子理事・松前もゆる理事より、以下の提案および報告があり、審議が行われた。

a. 2021年役員案

b. 2020年事業報告

c. 2021年事業計画案

d. 2020年決算報告

2020年収支決算書（次々頁）

d. 2021年予算

2021年収支予算書（次々頁）

上記 a-d の審議全般において、次の質疑応答があった。

① 余語会員より、学会誌電子化等の要因により黒字化した収支バランスの差額を会員サービスにあてるべきであるが、その案は理事会で立てられているかどうかという質問があった。

→これに対し松前理事より、現在の収支モデルは学会補助金が予定通り得られるという前提であり、これが恒常的なものかどうかは今後不透明である。また会費収入で確実に今後の支出がまかなえる体制になっているとは言い難いという回答があった。

② 余語会員より、予備費の確保が学会の予算規模に対して大きすぎるのではないかという指摘があった。

→これに対し松前理事より、予備費が多くなっているのは事実だが、会費収入が

安定してとれることが前提であり、いまだそれが不確定であること。補助金についても流動的で、何年かのスパンで見なければならぬこと。そのような状況での新しい試みとして、読書会・研究会等の支出を伴わない企画が行われている旨の回答があった。

- ③ 余語会員より、以前は総会のための基本情報（会員数動向・会計・事業報告等）が事前に会員に提示されていたが、現在は Web での公開となっているため、情報提供のあり方を考えるべきではないか。また 2020 年にほぼイベントができなかった分の予算を還元するべきではないかとの質問があった。

→これに対し竹中理事より、現在の会員及び新規会員獲得につながる企画の継続と立案を行っていること、今後安定すれば予算を付ける予定もあることが説明され、さらにコロナで企画の多くが実施できない状況については理事会にて引き続き検討をする旨の回答があった。また総会における情報提供のあり方については見直していきたいが、総会前に理事会を実施している事情は了承していただきたいという回答があった。

→編集委員長の石田理事より、若手研究者に対し勉強の場・発表の場をつくるべきという議論はかねてより行っており、現在はパイロット的な段階ではあるが勉強会・読書会が始まったところである。少しずつ会員獲得の足場を作っていくので見守っていただきたいという回答があった。

→企画委員長の内藤理事より、若手育成と会員獲得を兼ねたイベントを目下企画検討中であるため、時間をいただきたいとの回答があった。

e. その他

2021 年度の役員選出として、前年度同様、会長を國弘暁子氏、副会長を三浦敦氏、井上真氏が務める旨が提示された。

竹中理事より、学会誌の配布方法について、以下のような報告がされた。

- ① 学会誌の表紙について：電子化にともない、『文化人類学研究』をオンデマンド印刷する予定。その際、新たな表紙を採用することとなった。
- ② 第 4 回学会奨励賞の募集：対象となるのは『文化人類学研究』第 21 巻・第 22 巻に掲載決定された投稿論文より 1 点。応募資格などについては HP など参照されたい。

石田理事より、『文化人類学研究』21 巻について、編集搭載作業がずれ込んだため、（総会の日付より）近日中公開となることが補足された。

2021年1月9日(土) 現代文化人類学会総会資料

2020年収支決算書

2020年1月1日～2020年12月31日

収 入		支 出			
会費	¥697,000	事業費	出版費	¥591,798	
			会場施設費	¥0	
会誌売上金	¥99,000	事務費	会議費	¥7,306	
前年繰越金	¥2,227,855		通信運搬費	¥10,248	
学会補助金	¥408,618	人件費	事務用品費	¥11,729	
雑収入	¥8		複写費	¥0	
		その他	業務委託費	¥374,872	
			謝金	¥139,300	
		次 年 繰 越 金	交通費	¥3,902	
			振込手数料	¥1,200	
		雑費	¥0		
合計	¥3,432,481	合計	¥2,292,126	合計	¥3,432,481

2021年収支予算書

2021年1月1日～2021年12月31日

収 入		支 出			
会費	¥800,000	事業費	出版費	¥700,000	
			会場施設費	¥0	
会誌売上金	¥20,000	事務費	会議費	¥10,000	
前年繰越金	¥2,292,126		通信運搬費	¥10,000	
学会補助金	¥750,000	人件費	事務用品費	¥10,000	
雑収入	¥0		複写費	¥10,000	
		その他	業務委託費	¥240,000	
			謝金	¥150,000	
		予 備 費	交通費	¥10,000	
			振込手数料	¥2,000	
		雑費	¥30,000		
合計	¥3,862,126	合計	¥2,690,126	合計	¥3,862,126

3. シンポジウム

テーマ Writing (Against) Nature : 「転回」以後の民族誌

<趣旨説明>

里見龍樹 (早稲田大学)

<パネリスト>

橋爪太作 (早稲田大学、メラネシア民族誌)

「フタバガキが倒れるとき：現代メラネシアの森林伐採から考える人新世時代の自然」

古川不可知 (九州大学大学院比較社会文化研究院、南アジア民族誌)

「ヒマラヤを歩くことと生成変化する「自然」の境界：ティム・インゴルドの環境論を手掛かりに」

近藤宏 (早稲田大学、ラテンアメリカ民族誌)

「種による記述、あるいは、複製される身体表面：パナマ東部先住民エンベラによる不可視の存在の記述」

<コメンテーター>

箭内匡 (東京大学、イメージの人類学)

(2) 日本文化人類学会関東地区研究懇談会 2021 年度第 1 回定例研究会 (現代文化人類学会共催)

2021 年 6 月 26 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時

於：Zoom

テーマ 徹底討論：ジェンダー暴力の文化人類学

<趣旨説明>

田中雅一 (国際ファッション専門職大学)

「ジェンダー暴力研究のこれから」

<コメント>

加藤恵津子 (国際基督教大学) ・ 宮脇幸生 (大阪府立大学)

<司会進行>

嶺崎寛子 (成蹊大学) ・ 田中雅一

(3) 第 24 回研究集会

2021 年 7 月 17 日 (土) 午後 2 時 30 分～午後 5 時 30 分

於：Zoom

1. 研究発表

大澤 誠(早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員)

「非農家出身者が非農家出身者になるまでのエスノグラフィ―願望とミリューに注目して」

2. 講演

田中雅一 (国際ファッション専門職大学 副学長)

「トレンチ・アートあるいは武器とアートのエイジェンシーが交わる時」

(4) 若手・アーリーキャリア研究者セミナー (日本文化人類学会主催、現代文化人類学会共催)

2021年9月10日 (金) 午後1時～午後5時

於: Zoom

テーマ 人類学をベースにキャリアアップしよう: アカデミアの場合

<司会> 椎野若菜(東京外国語大学)

第一部 人類学をベースにキャリアアップ: アカデミアの場合

1. 「出版・論文投稿について」

話者: 石田智恵(早稲田大学)

2. 「研究キャリアの継続と“お金”」

話者: 門田岳久(立教大学)

第二部 情報共有と討論

1. 「近年のアカデミックポスト事情」

話題提供: 川瀬由高(江戸川大学)、河合文(東京外国語大学)、佐本英規(筑波大学)

2. 「海外留学と日本帰国後のキャリア形成」

話題提供: 大澤隆将(総合地球環境学研究所)

第三部 人類学関連の研究会の紹介

雑談コーナー (zoom ブレイクアウトルーム)

(5) 理事会

理事会は、以下の日程で行なわれた。審議内容はおもな議題のみを記した。すべての議事録は事務局に保管されている。

第46回 2021年1月9日 (土)

1) 審議事項

a. 2021年(第22回)総会・シンポジウムについて

- b. 2020 年決算・監査および 2021 年予算案について
- c. 2021 年役員および事務局体制について
- d. 2021 年度の企画について
- e. その他の企画について
- f. 学会誌表紙について
- g. その他

2) 報告事項

- a. 会員数動向および財務状況
- b. 編集委員会からの報告
- c. 将来構想 WG
- d. 広報担当からの報告
- e. その他

第 47 回 2021 年 7 月 17 日（土）

1) 審議事項

- a. 2022 年 1 月総会・シンポジウムについて
- b. 2021 年および 2022 年の高校生企画について
- c. 2020 年 1 月 25 日総会の件
- d. 会計報告について
- e. 予算執行について
- f. 理事会での手続きについて
- g. その他

2) 報告事項

- a. 会員数動向および財務状況
- b. 編集委員会
- c. 企画（委員会）からの開催報告
- d. その他

（6）編集企画委員会

編集委員会は、以下の構成および日程で行なわれ、学会誌 22 巻に関する特集原稿・投稿原稿の査読依頼・審査などの編集・校正業務を担当した。

1. 構成

編集委員長

石田智恵

編集副委員長

箕曲在弘

編集委員（50音順）

相原健志 碓 陽子 伊東一郎 砂井紫里 嶋内博愛 塚原伸治

照山絢子 中嶋哲也

2. 開催日程

第62回 2021年4月17日（土）

※以後、タスク管理ツールを通じて適宜オンラインでコミュニケーションをとった。

（7）学会誌

『文化人類学研究』第22巻が2021年1月に刊行、J-STAGEにて公開される予定である。

（8）会員動向（刊行物出版）

（9）受贈図書・雑誌要目

・関根久雄（編）『持続可能な開発における〈文化〉の居場所——「誰一人取り残さない」開発への応答』、春風社、2021年1月

・成城大学大学院文学研究科『日本常民文化紀要』第36輯（篠川賢教授 退任記念号）、2021年3月。

・長岡慶『病いと薬のコスモロジー——ヒマーラヤ東部タワンにおけるチベット医学、憑依、妖術の民族誌』春風社、2021年4月。

（10）会員数

上記の学会活動の結果として、2021年11月30日現在の会員数は259名となっている。

（事務局）